記者発表資料

平成２７年３月４日
郡山国道事務所

～ 昭和村からむし生産技術保存協会 東北で唯一受賞 ～
平成26年度「手づくり郷土賞」授与式の開催について

「室町時代からの伝統技術「からむし生産」伝承とからむし織姫」

地域づくりに取組む活動団体等の優れた地域活動を表彰する「手づくり郷土賞」に、『室町時代からの伝統技術「からむし生産」伝承とからむし織姫』（昭和村からむし生産技術保存協会）が選定されました。

この取組みは、道の駅を活用して、古来より当地に伝わる「からむし」の生産や、伝統工芸である「からむし織」の加工・販売を行っております。また、「からむし織」の体験教室を通じて、後継者育成や情報発信を図ることにより、地域間交流や観光の活性化に寄与しています。こういった取り組みが高く評価され、受賞となったものです。

今回の選定に伴う認定証授与式を、下記のとおり開催いたします。

１．日時：平成２７年３月８日（日）１４：００～１４：３０

２．場所：道の駅 からむし織の里しょうわ内　織姫交流館
福島県大沼郡昭和村佐倉字上ノ原１

３．その他：授与式終了後、からむし工芸博物館において、
からむしの歴史について、説明があります。


活動状況①


活動状況②


織姫による「からむし織」実演があります

《発表記者会：郡山記者クラブ、会津若松市記者クラブ》

問い合わせ先
国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所
ＴＥＬ．０２４－９４６－０３３３（代表）
副所長（改築）　佐藤 実（さとうみのる）　（内線２０４）
調査課長　橋本幸雄（はしもとゆきお）　（内線４５１）

資料1

平成26年度 手づくり郷土賞

目　的

全国各地において、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な地域資源として再認識し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりに成功している事例が数多く見受けられます。

このように、地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘し、「手づくり郷土賞」として表彰するとともに、好事例として広く紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指しています。

部　門

募集対象

手づくり郷土賞（一般部門）	手づくり郷土賞（大賞部門）
地域の魅力や個性を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果	これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動 を含む成果

選定のポイント

手づくり郷土賞の選考は、以下の視点に着目して行われます。

①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫
（地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての活用・育成 等）

②地域活動における創意・工夫、取組の独創性
（新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組 等）

③地域づくりへの成果及び波及効果
（地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果 等）

④今後の活動の継続性・発展性
（住民が長く活動を続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫 等）

⑤他の参考となるような先進性・先導性

⑥その他（上記以外の特に優れた内容）

⑦社会資本の地域への定着状況
（地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に活用 等）

⑧活動の継続状況
（規模を広げながら着実に継続している 等）

⑨活動の発展状況
（新たな取組を創出している、他地域へ波及している 等）

応募団体

社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が単体、又は社会資本を管理する地方公共団体（都道府県、市区町村）との共同で応募することができます。

選定委員会

委員長：	齋藤　潮	東京工業大学大学院社会理工学研究科　教授
	荻原　礼子	結 まちづくり計画室　代表・まちづくりプランナー
	佐々木　葉	早稲田大学創造理工学部　教授
	鈴木　伸治	横浜市立大学国際総合科学部　教授
	関　幸子	株式会社ローカルファースト　代表取締役
	田中　里沙	株式会社宣伝会議　取締役　編集室長
	森反　章夫	東京経済大学現代法学部　教授／災害復興研究所　所長
	瀧口　敬二	国土交通省総合政策局長

※ 詳細については、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページをご覧ください。
（http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/tedukuri/index.html）

資 料 2

《一般部門》　昭和村からむし生産技術保存協会
室町時代からの伝統技術
「からむし生産」伝承とからむし織姫

昭和村の「からむし」

「からむし」はイラクサ科の多年生植物で、古来より織布等の原料として用いられておりました。福島県昭和村は、本州唯一のからむし生産地で、約６００年前より栽培が行われてきました。からむしの原麻を加工する「からむし織」は、福島県の重要無形文化財に指定されており、貴重な文化遺産として位置付けられております。昭和村では、からむし生産とからむし織の後継者育成のため、平成６年より「からむし織姫体験制度」事業を行っております。これは、５月から翌年３月までの１１ヶ月間、「からむし織姫」として、「からむし栽培」から「からむし織」まで体験していただくものです。この事業が始まる際に建設された「からむし織の里」は、昭和村で最も重要な交流拠点として、その役割を担っております。



からむしの刈り取り状況



「からむし織」を体験する様子



昭和村の一大交流拠点である「からむし織の里」

活動の広がりについて

からむし生産とからむし織に携わっているのは、主に高齢の方々で、以前から後継者不足に悩まされておりました。からむし織姫体験制度事業により、織姫と多くの村民が交流を深めることで地域活性化となり、閉塞的になっていた高齢の方々に生きがいが生まれました。また、体験生として昭和村を訪れた女性の中から、体験終了後も昭和村に定住し、からむし織の後継者となった方もいらっしゃいます。

平成２６年４月には、からむし織の里が、道の駅「からむし織の里しょうわ」として登録され、同年８月に、その開所式が行われました。今後は、道の駅を活用した地域の観光情報発信等に更なる期待が寄せられております。



からむしの皮はぎ作業



乾燥させた、からむしの結束作業



織姫が自然観察体験を行う様子



織姫とからむしに携わる方々



からむし織の加工品



道の駅開所式の様子

道の駅「からむし織の里しょうわ」（福島県大沼郡昭和村）

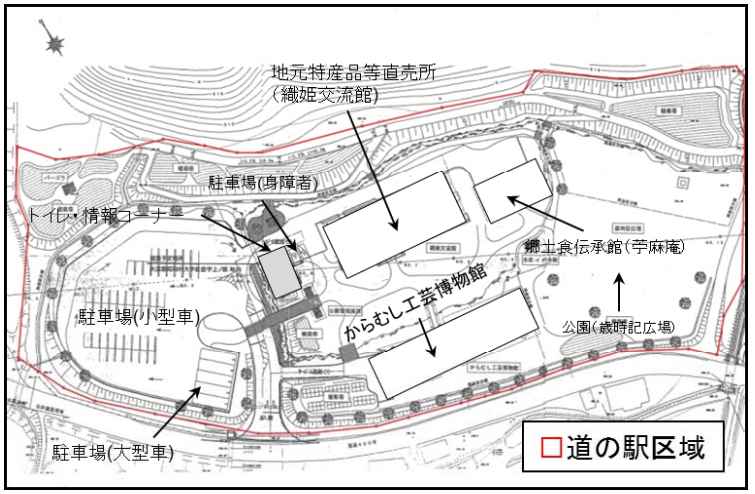
地域経済　観光　福祉　防災　文化

〇国の重要無形文化財に指定されている「越後上布」等の原材料となっている「からむし」の唯一の生産地。
〇「からむし織り」の体験、製品の普及、販売を行う拠点

〇設 置 者：昭和村
〇路 線 名：国道４００号（福島県）
〇整備手法：単独型
〇全体面積：約２６，９８７㎡







＜地域の課題＞

■著しい人口減少と極端な高齢化（53．2%）．定住人口の増加が必要
■「からむし織り」原材料の生産後継者不足（収入の確保）
■地域内の観光資源が有効に活用されず、観光客年間9万人にとどまる。


国選定保存技術「からむし織」


「からむし織」を使って
作られる越後上布

昭和村内の観光資源


国指定天然記念物
「駒止湿原」


冷湖の冷泉

《具体的な整備メニュー・取組み》

【地域経済の活性化】
・国内唯一の「からむし」生産拠点として「道の駅」を活用した情報発信
・地場産品名産品販売による交流人口増加
【交流人口・定住人口の増加】
・平成６年度開始「織姫体験制度」について「道の駅」で情報発信
・同制度による就業体験を通じ、移住が促進され、これまで１０２名が習得し、そのうち約４割（３９名）が会津地方に、約３割（２７名）が昭和村内に移住し、そのうち１１名が地元住民と結婚
【観光振興に向け「道の駅」を地域のゲートウエイとして活用】
・「道の駅」に観光案内人を常駐させ、地域の観光情報を発信
・国指定天然記念物等の案内人を育成し、地域の隠れた名所に案内
・地域の隠れた伝説や名所を観光資源化するため「語り部」を育成